

少子化対策の実効性について歴史的視点から評価する

Are pronatalist policies effective from a historical point of view?

池 周一郎 (帝京大学)

Shuichirou IKE (Teikyo University)

sike@main.teikyo-u.ac.jp

「少子化対策」はアマチュア向けの用語であり、「出生(力)促進政策」等と呼ばれるべきである。以下、「出生力促進政策」で使用することとする。

さてこの「出生力促進政策」の実効性については、計量分析の対象としてホットな話題となっている。本企画セッションでも、赤川 学先生の『これが答えだ！少子化問題』の提示した論点について議論が行われよう。小生の報告は、計量分析とは趣を変え、「出生力促進政策」の実効性について歴史から学ぼうというものである。

まず、このような問題について論じるには、小島 宏の「出生促進政策の有効性」(『人口問題研究』, 1989, No. 191: 15-34.)をまず手に取るべきである。これはもっと読まれるべき論文である。その要点を手短に述べると、「有効性」の定義が実は難しく一筋縄ではないこと、および過去の実証研究(主に 1960 年代以降のヨーロッパ諸国を対象としている計量分析)の結果も「あり・なし」が対峙していることが調べられており、小島は「出生促進政策にはあまり大きな有効性はないようであるが、…」と結論で書いているのである。

本報告は、小島が主にベビーブーム以降の低出生時期の「出生促進政策の有効性」を検討したのに対して、*The Fear of Population Decline*(Teitellbaum & Winter) や *Bevolkerungsgeschichte und historische Demographie 1800-2000*(Ehmer) に依拠して、19 世紀末から 20 世紀初頭のフランス、ナチスドイツ時代のドイツ、ビシー政府のフランス、軍国主義の日本、チャウシェスク政権のルーマニアという、最も極端な「出生力促進政策」の実効性について論じる。

(1) フランス

セダンの戦いの屈辱的敗戦の後、仮想敵ドイツとの戦略人口学的劣勢を意識したフランスは、20 世紀初頭には、絵葉書によるプロパガンダを行った。「五人のドイツ人が二人のフランス人を銃剣で突いている」、「小さなフランスの赤ん坊を軽蔑する大きなドイツの赤ん坊」、「新婚旅行中でも愛国の義務を呼び戻すようフランスの男女に求める」
現実：第一次大戦まで出生率は低下した。

(2) ナチスドイツ

ゲルマン民族優越思想のもとでとられた積極的な出生促進策が長期的なトレンドに変化を及ぼしていないことは明白

(3) ビシー・フランス

政府機関紙「家族問題はいまや、過去にはない重要性を持っている」、家族培養の祝典：5人の子どもの婦人には銅メダル，7人の婦人には銀，10人以上には金メダル。

現実：南フランスの出生力が上昇したのはベビーブームからである。

(4) 軍国日本

「人口政策確立要綱」出生の増加は今後の十年間に婚姻年齢を現在に比較し概ね三年はやむると共に一夫婦の出生数平均五児に達することを目標として計画す

不健全なる思想の排除 健全なる家族制度の維持強化 積極的に結婚の紹介，斡旋，指導 結婚費用の徹底的軽減

現実：1950年代までは一貫した出生率低下

(5) スターリン・ソ連

人工妊娠中絶の禁止 母子福祉に対する財政援助 独身者，無子，子ども一人の市民に課税 「母性の勲章」

現実：出生率の低下は1960年代半ばまで継続した。

(6) チャウシェスク・ルーマニア

「祖国の経済社会的進歩を保証し，全国民の活力と若さを保つためには，出生率の増加，適切な人口増加を保証する努力，家族の強化がわが社会主義国家発展の最優先的目標とならなければならない」保健施設の広範なネットワーク，託児所，幼稚園，児童手当，大家族に対する補助金，中絶の禁止

現実：一時的な期間出生率の上昇の後，捨て子が急増，政権打倒後は期間出生率の急激な低下

これらの非常に強権的で過激な政策を政府が実施しても，出生促進策はなんら実効的ではなく長期的に見ればマイナスであったと評価できるのは明白である。現在の日本の政策の実効性は，歴史に学ばばまったくナンセンスである。人口現象は基本的に「背景非依存」であるからこれは当たり前なのだ。

参考文献

小島 宏，「出生促進政策の有効性」，1989，『人口問題研究』，Vol.45 (No.2)，No. 191，pp.15-34.

Josef Ehmer, *Bevölkerungsgeschichte und historische Demographie 1800-2000*, 2004, Oldenbourg Wissenschaftsverlag GmbH. 『近代ドイツ人口史—人口学研究の傾向と基本問題』，2008，昭和堂。

M.S.Teitellbaum and J.M.Winter, *The Fear of Population Decline*, 1985, Academic Press. 『人口減少—西欧文明 衰退への不安』，1989，多賀出版。

人口政策確立要綱 (<http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/14144606.pdf>)